

皆さんはコンソーシアムと聞いて何を思い浮かべますか？ 元々は「共同体」、「連合」という意味で、共通の目的に沿った活動を行うために結成されます。大学図書館では、「複数の図書館が、共同で電子ジャーナルの契約交渉・購入を行う」コンソーシアムが活躍しています。

※電子ジャーナルについては、メルマガ No.27・31 もご参照ください。

◆誕生の背景

1970 年頃から、主に海外の学術雑誌は商業出版社による市場の寡占化と価格高騰が進みました。多くの大学や研究機関は予算の確保が困難となり、購読中止を余儀なくされ、出版社はその収益減少を価格へ転嫁という悪循環が繰り返されたのです。こうして、研究に必要な情報を提供できなくなった危機のことを「シリアルズ・クライシス（雑誌の危機）」と言います。それに加え 2000 年頃から日本向け円建ての価格（実質 30%増）が設定され、国内の大学図書館は窮地に追い込まれました。

外国雑誌は毎年 6～10%の誌代の値上がりに加え消費税率の引き上げが重なり、本学でも 2004 年以降は維持・継続が困難となりました。さらにはリバースチャージ制度の適用もあり、2015 年に全学的なアンケートを実施した結果を基に、166 誌を購読中止する事態となりました。

このような問題へ対応すべく、国内でも 2000 年以降、出版社との価格交渉・購読契約を共同で行うコンソーシアムが形成されています。有利な利用条件の確保、交渉窓口の一元化による負担軽減、コストダウン等のメリットがありますが、参加館数によっては不成立になってしまう場合もあります。

◆国内の組織

(1)JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)

2011 年 4 月、国立大学図書館協会(JANUL)コンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)の統合により誕生しました。世界有数の大規模コンソーシアムであり、533(2017 年 6 月現在)の大学図書館から構成されています。国公立の設置母体に係わらず、4 年制大学の図書館が参加可能です。バックファイルを含む電子ジャーナルの確保と恒久的なアクセス保証を重要な責務としています。本学では「SpringerLink」、「Wiley」を契約しています。

(2)JMLA(日本医学図書館協会)/JPLA(日本薬学図書館協議会)

JMLA は、1927 年に創立された「官立医科大学附属図書館協会」に端を発する協会であり、保健・医療・関連領域の進歩発展に寄与することを目的としています。当初は、国公立の医療系の専門図書館から構成されていましたが、現在では、病院、研究所の図書館、公益団体、個人などにも入会を認めています(2017 年 7 月現在、145 機関)。

JPLA は、1955 年に薬学図書館事業の振興を図り、薬学教育および研究に寄与することを目的として発足しました。薬学系大学、研究所、製薬企業の図書館などから構成されています(2016 年 9 月現在、115 機関)。

2002 年からは、電子資料に関する保健・医療および関連分野のコンソーシアム活動を 2 団体共同で推進しています。雑誌担当委員が窓口となって出版社との交渉に当たり、毎年秋に説明会も開催されています。本学では、「Science」、「Nature」、「ACS」、「JAMA」、「Rockefeller」、「BMJ」、「MedicalFinder」、「e ナーストレーナー」を契約しています。

限られた予算で、より多くの電子ジャーナルを契約することで、利用者の皆さんに多くの情報を提供可能になります。

図書館トリビア

2016年10月、館内広報委員会下部組織として、医療情報部会が発足しました。「図書館同士が連携することにより、図書館機能の拡大・効率化を図る」、「地域の図書館を通じて、医療・健康情報の提供をする」などの目的で活動中です。これまでに県内図書館との連携展示2件とワークショップを開催し、次回は肥満防止推進月間に関連した展示を企画中です。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館